

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年12月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501308		
法人名	有限会社 レストケア		
事業所名	グループホーム ぴーぷる		
所在地	〒005-0850 札幌市南区石山東3丁目3-8 (電話) 011-592-5100		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月3日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】 (平成21年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 12人 非常勤 4人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	水光熱費 25,000 円	冬季暖房費(11月～3月)	11,000円
敷金	有 (60,000 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要 (10月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときわ病院、日之出歯科真駒内診療所、愛全病院、石山病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設8年目の当事業所は、平成17年に当地に新築移転し、地域住民と関わりながらその人らしい暮らしの実現に熱心に取り組んでいる。運営者が看護師であり、看護職員が常勤し、利用者の心身の機能維持・低下防止に努め、日常健康管理やターミナルケア体制も整っており、利用者は安心感ある日々を過ごしている。職員は研修参加に積極的でスキルアップを図りチームで模索しながら、一人ひとりの状況に応じた自立支援を実践している。緑の多い閑静な住宅街に立地し、地域住民の協力や小学児童の気軽な訪問もあり、利用者の豊かな生活の継続に努力している事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である家族への便りの工夫などは改善の方向で進めている。また外部評価で交わされた内容を、職員会議で協議し利用者のケアサービスの実践に結び付けており、質向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ミーティングなどで時間を掛けて取り組み、項目ごと読み上げながら全職員で話し合い作成している。日頃のケアの確認と職員間の意識統一の機会にもなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月毎に開催し、事業所の現状を報告、ケアの取り組み状況や防災、地域交流について意見交換を行い、感染症などに関して事業所の専門性を活かした情報発信を行っている。会議を通してボランティアなどの情報交換もあり、地域交流の広がりにつなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所として家族の率直な意向を重要と考えており、日頃から家族と接する機会には、話しやすい雰囲気配慮し、表出された意見や要望は検討し、運営やケアの実践に反映させている。家族の訪問が少ない利用者も居られるので、さらに家族が知りたいと思われる情報伝達の工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、夏祭りなどの行事や清掃活動に参加している。また事業所行事である敬老会に地域の方の来訪を呼び掛けるなど、地域との関係性の強化に努めている。地域小学校児童とは総合学習の事業所見学を契機に、運動会や学習発表会に出向き、また敬老会や学校帰りに立ち寄ってくれるなど双方向の交流が盛んであり、利用者の楽しみになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所として、地域の関係を重視し、利用者のその人らしい暮らしの継続を謳った運営理念を掲げている。さらに各ユニットには誰もが分かりやすい言葉で掲示し、理念に根差したサービスの実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎日の申し送り時に唱和・確認すると共に、管理者は新人研修や会議で理念を具現化した伝達を行い、理念の理解の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の夏祭りや清掃活動に参加し、近隣の方とは散策時に挨拶や会話を交わし、触れ合う機会になっている。地域住民に気軽に足を運んでもらえるよう行事の際は来訪を呼び掛け、ボランティアの導入などオープンな運営に努めている。地元の小学校児童との訪問交流が盛んであり、利用者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ミーティングなどで項目毎に協議し、全職員が関与して作成されている。評価への取り組みプロセスは、日頃のケアの振り返りと意識統一の機会となり、管理者と職員は前向きな姿勢でサービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や民生員や老人クラブ代表などの地域代表、包括支援センター職員を構成員として3ヶ月毎に開催している。事業所の実情を報告し、地域協力や交流について意見交換が進められ、感染症など事業所の専門性を活かした情報を提供している。今後、開催頻度の向上に取り組む方向性を示している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の行政担当者が出席するグループホーム連絡協議会などを通して連携を図り質向上に取り組んでいる。また行政担当者の来訪の機会には情報を共有し、利用者サービスに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、管理者が中心になって利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告し、電話での連絡・報告を行っている。毎月写真を主にした「ぴーぶる新聞」や金銭管理報告始め、事務担当からの個別のコメントを同封して報告している。	○	家族との関わりは、利用者の身近な存在である職員から報告も有効であり、利用者個別の便りの送付や面会時対応、また職員交替の報告など、家族が知りたいと思われる情報発信の工夫に積極的に取り組む事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情対応体制を明示し、意見箱を設置している。家族の訪問が少ない利用者も多いので、事業所として率直な意向の聴取を重要に考えている。運営推進会議の場で意見を伺い、また家族と接する機会には話しやすい雰囲気心掛け、要望は検討して日々のケアや運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係性を大切にして、母体組織内の異動は最小限に留めている。より良い職場環境作りに職員との意思疎通を図り、止むを得ない離職の場合も、一週間程度の引継ぎ期間を設けるなど利用者への影響を考慮した対策を取っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員研修や職員の経験や習熟度、希望に応じた外部研修の参加を積極的に促し、研修後は報告書提出や全体会議で共有している。職員の学習意欲は高く、OJT(実地研修)に取り組みながら相互に学びあう姿勢を持ち、虐待防止に関しては委員会を設置し、さらに学びを掘り下げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、南区のグループホーム連絡協議会の今年度の役員を担っているほか、地域包括センター主催の事例検討会に出席し、情報や意見交換を行っているが、職員同士の交流は行われていない。	○	地域の同業者との連携を深め、職員が直接気付きを体得できる相互訪問や学習の機会など、互いに切磋琢磨してより実践に結びつく交流の機会を実現し、サービスの質向上に向けた取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前に、可能な限り本人、家族と一緒に見学されるよう促している。緊急や病院からの直接の入居もあり、自宅や病院、施設に出向き、本人の生活歴を情報収集し、また入居直後は家族に頻繁の来訪をお願いするなど、利用者の不安感や戸惑いに配慮したサービス開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員目線の介助や押し付けではなく、生活スタイルや思いを尊重し、自らの意思を大切に見守りながら、できない事を支えるケアを心掛けている。一人ひとりと一緒に過ごす関わりからの学びは多く、時には労わりの言葉を頂き、共に支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え、MDSアセスメントシートを使用し、本人の全体像の把握と共に、暮らしの中で言葉や仕草、表情などから現状の思いや願いを汲み取り、職員間で共有し、本人本位の検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活記録は具体的にかつ詳細に記録され、カンファレンスで、月に1度本人の状況について職員全員の気づきを出し合い、確認・検討を行っている。本人や家族の意向、医療関係者の意見も集約し、個別性のある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期、短期目標を設定し、3ヵ月ごとに見直しに取り組んでいる。利用者の状態に変化が生じた場合は職員間で検討し、状況に即した計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者、管理者が看護師であり、健康管理や異変時の初期対応により、受診や入院回避など利用者の負担軽減に対応している。また本人、家族の状況や要望を受けて特別な外出など事業所の多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による隔週の訪問診療や利用者個別のかかりつけ医への定期受診など状況に応じた受診支援をしている。日頃から複数の医療機関とは密接な連携体制を整えており、利用者の心身の健康に24時間の適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は、医療との連携を図りながら事業所ででき得る限りの支援を実施する方針であり、利用契約時に、指針をもとに利用者や家族の意思確認をしている。利用者の状態に応じ段階的な合意や共有を重ね、本人、家族の意向を尊重した支援体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々の関わりの中で、利用者のプライドやプライバシーを常に意識した対応を心掛け職員間で注意し合い、本人の尊厳を大切に支援に努めている。また記録などの保管場所を定め、個人情報の使用に関しても十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、その人らしい暮らしについて検討し、利用者の個別の生活スタイルを大切にしている。体操やレクリエーションなどは、押し付けにならないよう思いや体調に配慮し、ゆっくりとした日常の暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関しての役割は毎日交替し、一人ひとりの意欲や力を引き出しながら、楽しい会話をの中、調理の手伝いや後片付けなどを一緒に行っている。食事も皆で食卓を囲み、さりげない声かけや介助で落ち着いた食事を支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴支援であるが、毎日の入浴が可能な体制が取られている。状況によってシャワー浴などは随時行われ、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、身体を動かすゲームやトランプ、歌唱、短歌やちぎり絵などを楽しみ、家事仕事もできる事を職員と一緒に協働している。過去の経験や現状の力を活かし日々の暮らしが喜びや張り合いに繋がる支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時期は散歩を日課とし、玄関先のベンチに座り中庭に出てお茶を頂いたり、利用者が戸外に出る機会を日常的に支援している。冬季間は外出が限定されるが、買物や外食会、日帰り温泉ツアーなど外出の工夫を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯は施錠していない。利用者の突然の外出には一緒に付き添って出掛け、安全の確保と利用者の思いを大切に、地域の中での自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防の協力を得て夜間想定や階段の移動体験などの実践的な避難訓練を行っている。運営推進会議で地域協力を要請し、訓練には近隣住民の参加も頂いている。災害時対応マニュアル、緊急連絡網が整備され、実際時の対応について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食量などを記録して情報を共有している。食材納入業者の管理栄養士が作成した献立に、利用者の嗜好や希望、状態を考慮して、食材を追加したり、代替食や調理法を工夫するなど柔軟に個別対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間を中心にL字型に居室が配置され、全体にゆったりとした使い勝手の良い共用空間になっている。壁面には季節飾りや装飾品がすっきりと施され、また対面式の台所からは調理音や料理の匂いが漂い、生活感のある落ち着いた寛ぎの場が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リースのベットを使用している利用者も多いが、ほかの調度類は馴染み物が設置され、大切にしている位牌や神棚などが持ち込まれている。掃除は職員が主に行っており、清潔に保たれた安心感のある居室になっている。		

※  は、重点項目。